



# 311子ども甲状腺がん 損害賠償請求訴訟

第9回口頭弁論期日

2024年3月6日

原告ら訴訟代理人弁護士 井戸 謙一



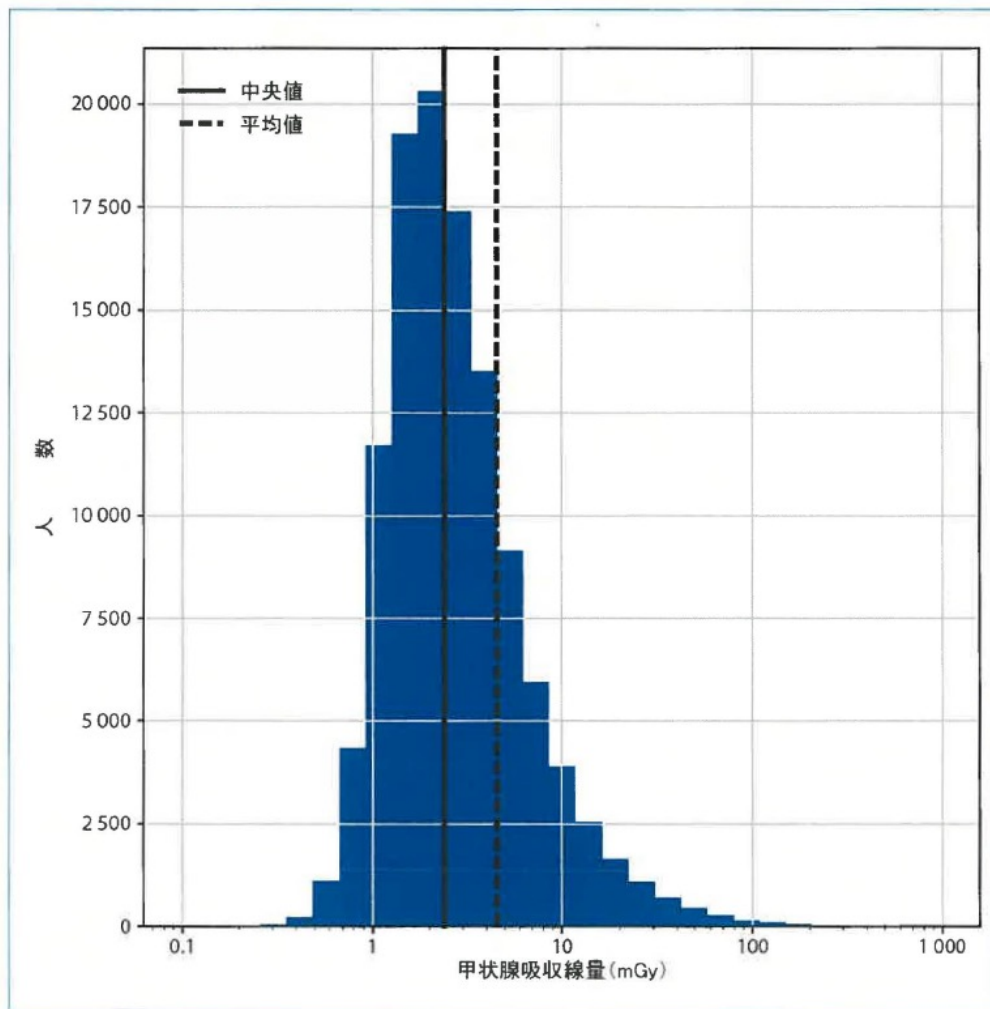
# 原告・第19準備書面の概要

(東電の準備書面(1)の反論未了部分の反論及び福島  
県県民健康調査の最新情報)



# 被ばくと病気との因果関係を判断するに当たり、 多数者の被ばく線量を前提にするのは誤りである。

図 A-XV 避難者の事故直後1年間における甲状腺吸収線量の分布\*



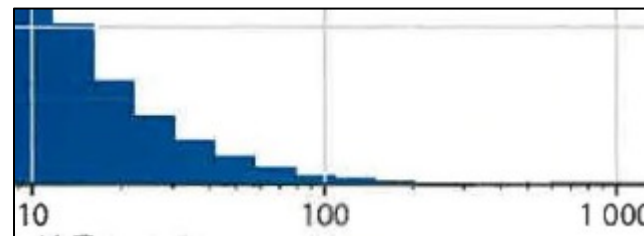
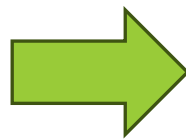
\* 全ての年齢層を含む。

## 被告の主張

避難者の10歳児の甲状腺等価線量は1.6~22mSv  
 非避難者の10歳児の甲状腺等価線量は1.0~17mSv  
 (いずれも5%タイル値~95%タイル値)

被告の住民被ばく量に関する主張は過小評価であるが、仮に、被告の評価を前提としても、5%の住民はそれ以上の被ばくをしていることになる。

当時の県内の18歳以下の人口38万人。  
 5%は1万9000人。



UNSCEAR2020.2  
 021報告(乙全  
 4の163頁)

## 第50回検討委員会で公表された甲状腺がんの人数

	対象者数	受診者数	B・C判定	2次検査 受診者	診断確定	A判定以外		手術済み がん	
						穿刺細胞診			
						受診者数	悪性疑い		
1巡目	367,637	300,472	2,294	2,130	2,019	1,380	547	116	102
		81.7%	0.62%	92.9%	98.2%	66.0%	39.6%	29.3%	101
2巡目	381,237	270,552	2,230	1,877	1,834	1,404	207	71	56
		71.0%	0.8%	84.2%	97.7%	76.6%	14.7%	34.3%	56
3巡目	336,667	217,992	1,502	1,104	1,068	959	79	31	29
		64.7%	0.7%	73.5%	96.7%	89.8%	8.2%	39.2%	29
4巡目	294,228	183,410	1,394	1,036	1,016	922	91	39	34
		62.3%	0.8%	74.3%	98.1%	90.7%	9.9%	42.8%	34
5巡目	252,938	113,937	1,346	1060	1007	916	87	43(+4)	34(+7)
		45.0%	1.2%	78.8%	95.0%	91.0%	9.5%	50%	34(+7)
25歳節目	129,006	11,867	647	545	535	492	49	23(+1)	17(+3)
		9.1%	5.5%	84.2%	98.2%	92.0%	10.0%	46.9%	17(+3)
30歳節目	22,625	1,571	134	107	96	89	13	5(+2)	3(+2)
		6.9%	8.6%	79.9%	89.7%	92.9%	14.4%	38.4%	3(+2)
合計								328(+7)	がん 274(+12)

1巡目は2018年3月末、3巡目は2021年3月末、2巡目は2022年3月末、4巡目は2022年6月末、5巡目、節目検査は2023年9月末



# がん登録のみの症例とがん登録及び県民健康調査の双方に登録されている症例の比較

	(A) がん登録のみに登録されている症例43例	(B) がん登録と県民健康調査の双方に登録されている症例177例
上皮内又は限局性の症例	46.5%	35.0%
領域リンパ節転移、隣接臓器浸潤、遠隔転移の症例	51.9%	65.0%

(A) には症状が発生した症例が含まれる。  
しかるに、軽い症例は(A)に多く、重い症例は(B)に多い。

(B) が潜在がんなのであれば、説明がつかない。